

大学院『専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉 〈教育課程の編成・実施方針〉 〈学生の受け入れ方針〉

英語英文学専攻修士課程

1. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

英語英文学専攻は、「一人一人の人間をかけがえのない存在として愛するキリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関わりを深める」という建学の精神に基づき、次のような能力と資質を身につけた修了生を社会に送り出します。

英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムとそれらの関連分野についての深い学識と幅広い知見、および高度な研究遂行能力。とくに英語学分野では、理論・実証両面からの研究を行うための方法論と知識、さらに研究を通じて得られる、人間の存在の基盤としての言語に対する深い理解、英文学分野では、個々の作家・作品についての的確な洞察力と想像力、およびそれらの背景をなす社会や時代思潮に対する知見と学識を涵養することを重視しています。現代社会とジャーナリズム分野では社会科学的見地から現代社会とメディア、政治、医療、教育などの関係を学際的に探究します。

英語の高度な運用能力と英語英文学の専門的知識をもとに、世界の多様な声に耳を傾け、柔軟に受けとめ、自らの意見を自らの言葉で発信する力。それにより対立や無関心を乗り越えて、グローバル化する世界の一員として他者とつながり協働する態度。生涯にわたり、英語の世界への知的、学問的関心を抱き、主体的に探究し続ける姿勢を身につけることを目指します。

本専攻の修了生は、研究者・大学教員、小学校・中学校・高等学校の教員、翻訳・通訳・メディア関係の専門家として、あるいはその他の社会的・職業的活動において広く社会に貢献を果たすことが期待されます。

2. 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

英語英文学専攻は、学位授与方針に基づき、次のような方針で教育課程を編成し実施します。

1 主な研究対象である英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムについての高度な研究が進められるよう、体系的で幅広い学識を培うコースワークと、研究活動の遂行をとおして研究能力を育成するリサーチワークとの順次性とバランスに配慮して教育課程を編成しています。

(1) コースワークは、英語学・英文学・現代社会とジャーナリズムの各専門領域を過不足なくカバーするように計画されています。英語学分野は統語論・形態論・音声学・音韻論・意味論・語用論・社会言語学・談話分析・英語教育学・第二言語習得など多岐の領域にわたります。英文学分野はイギリス・アメリカ・アイルランド文学のほか、英語圏文学を広く対象とし、デジタルメディアと文学、翻訳、エコクリティシズム、韻文と映像などの領域も扱っています。現代社会とジャーナリズム分野は社会言語学、談話分析、マスメディアコミュニケーションの政治経済、メディア社会論などについて研究します。

(2) リサーチワークとしては「英語英文学論文演習」を設置し、大学院学生（以下「学生」）が定期的に指導教員の指導を受けつつ、修士論文作成に向けて個別研究を進めることができるようにしており、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程となっています。

(3) 修了要件（30単位以上）のうち、20単位以上を英語英文学専攻において修得します。また10単位を上限として、英語英文学専攻が承認した本学大学院他専攻の授業科目、ならびに本専攻が承認した、委託聴講制度の協定を結んだ他大学大学院の授業科目を修得することができます。委託聴講制度等の活用により、学生が多角的な視点を身につけるとともに、個別研究の充実を図ることが可能となります。

2 少人数を基本とする授業と活動をとおして「聖心女子大学の理念」および研究理念への理解を深め、思考力、判断力を伸ばし、自発性、創造性を発揮することができるよう配慮しています。

学生の研究テーマに合わせて、きめ細やかな授業と個別指導を行うのが本専攻の特徴です。授業は論文作成に必要な知識と英語表現力を培い、かつ学生の主体的な参加を促す少人数の演習形式を中心としています。授業においては、学生の発表と全体での討論を重視しています。

毎年度、学生は指導教員と相談の上、研究計画を立てて、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導します。学生は定期的に論文演習等をとおして指導教員の研究指導および論文作成指導を受け、英語による論文作成を行います。また、複数指導体制をとり、学生は研究全般に関して、指導教員のほか適宜副指導教員にも相談することができます。きめ細やかな指導により、主体的な学びが推奨されると同時に、より高いレベルの専門性と応用力が確保されるよう配慮されています。

3 本専攻の修了生像の実現に向けて、英語の高度な運用能力を身につけることができるよう配慮しています。

多くの授業は英語で行なわれており、その他の科目においても、専門分野の知識の獲得と同時に英語力の充実が図られています。英語による修士論文作成を義務づけ、英語による口頭発表を奨励し、つねに英語の表現力を高める機会を設けています。また専門分野と英語表現力の二つの面で主体的な学びを促すため、授業外でさまざまなレベルにおける国際交流を推進しています。

3. 学生受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

英語英文学専攻に入学する大学院学生は、修了時までにディプロマ・ポリシーに示した能力や姿勢を身につけることが目標となります。そのため、本専攻では入学者の受入れにあたって、次のような点を大切にします。

- 1 本専攻での研究遂行に必要な基礎知識、批判的思考力、創意あふれる洞察力、および英語運用能力を備えていること。
- 2 英語で開かれていく世界の多様な文化・社会について、的確に理解し、積極的かつ創造的に発信しようとする探究心に富み、そのために必要な思考力・判断力・表現力を養おうとする、前向きな姿勢をもっていること。
- 3 グローバル化する世界の一員として、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ意欲があり、修了後には本専攻で身につけた学識や能力、培われた豊かな人間性をもとに、社会への貢献を目指していること。

2018年3月7日更新

2021年4月1日更新